

市長記者会見記録

日時：2006年10月27日（金） 午後1時00分～20分

場所：本庁舎2階 講堂

議題：横須賀線武蔵小杉新駅設置工事等の施行協定締結について

<内容>

司会：それでは、これより市長記者会見を行います。

本日の議題は、横須賀線武蔵小杉新駅設置工事等の施行協定締結についてでございます。

それでは、幹事社さんよろしく願いいたします。

幹事社：では市長、よろしく申し上げます。

〈横須賀線武蔵小杉新駅設置工事等の施行協定締結について〉

市長：本日、横須賀線武蔵小杉新駅設置工事等の施行に関する協定を締結いたしましたので、概要をご説明します。

武蔵小杉駅周辺地区につきましては、「川崎再生フロンティアプラン」におきまして「広域拠点」と位置づけ、重点戦略プランの1つとして、「民間活力を活かした都市機能整備の支援誘導」と「横須賀線武蔵小杉新駅の整備」の2つを柱として、まちづくりを推進しております。

最近では、武蔵小杉駅周辺地区に関して、新聞紙上やマスコミなどで取り上げられる機会が多くなり、先ごろは、アンケートで武蔵小杉が首都圏で「イメージが良くなった街」のトップにランクされたとの報道などもあり、川崎市内外から多くの注目が集まっているところでございます。

こうした人気の大きな要因として、小杉地区の交通の便のよさが挙げられると思っておりますけれども、新駅の効果が早くも表われてきたのではないかと考えております。

昨年4月に当時のJR東日本の大塚社長とこの新駅設置の基本合意について調印し、その後、概略設計が行われ、本日、工事の施行等についての協定締結に至りました。

協定の期間といたしましては、平成21年度末まででございますが、年度末とは言わず、一目でも早い開業ができるよう事業が進むこと、そして、早く市民の皆様にご利用いただき、大きな効果が発揮されることを願っております。

新駅の計画の内容につきましては、資料の計画概要、概略のパーズなどをご参照ください。

まず計画概要ですが、赤い線に表示しております横須賀線の下り線路を移動しまして、上り線との間に一面二線の高架島式ホームを設置します。高架下の地上部分に駅舎・改札口を設け、ホームへは、階段、エスカレータ、エレベータを設置いたします。

また、南武線武蔵小杉駅からの利用経路や乗り換えの経路として利用する連絡通路を設け、跨線橋、エスカレータ、エレベータ、動く歩道などを設置する計画です。

鳥瞰パーズでは、銀色に青い帯の横須賀線車両が止まっており、ホームや駅舎が見えますが、このあたりは、NECの用地を提供していただくことになっております。

計画概要を併せてご覧いただきますと、計画の全体概要と周囲との位置関係がおわかりいただけけると存じます。

次に工事費ですが、設備工事などを含めた概算総額は約168億円です。

この費用負担につきましては、川崎市が約86億円、小杉駅周辺地区における民間住宅開発の4つのプロジェクトを進めている民間住宅事業者が60億円を負担することとなります。

この60億円につきましては、国の補助制度に基づき川崎市が行っております住宅市街地総合整備事業補助として、3分の2にあたる40億円を補助する予定でございます。また、JR東日本が約22億円を負担いたします。

川崎市の負担の総額といたしましては、86億円と住宅事業者への補助金40億円を合わせた約126億円となります。

この新駅整備事業につきましては、国土交通省所管の「まちづくり交付金」制度で事業を認めていただいております。約46億円の国費の導入をお願いしております。したがって、一般財源としては、この46億円を差し引いた約80億円を予定しております。

今年度から来年度にかけて、詳細設計、用地取得を進め、来年度は、工事に着手し、平成21年度内の開業を予定しております。

以上が、新駅設置工事等の施行に関する協定締結の概要でございます。

武蔵小杉駅周辺地区は、開発が順調に進み、超高層ビルもその姿を大分あらわしてきておりまして、一部の住宅では入居も始まっていると聞いております。広域拠点としてのまちの姿が、見え始めてきたという感があります。

今後とも、川崎の新たな顔としての「武蔵小杉駅周辺地区」の整備を重点的に進めてまいりますとともに、川崎の魅力の向上に取り組んでまいりたいと存じます。

〈質疑〉

記者：昨年4月の調印の時と比較しますと、1つは、利用想定は変わっていませんかということ、もう1つは、概算事業費が当時は200億円となっていたので、大分安く上げることができたのかということをお尋ねしたいと思います。

まちづくり局新駅整備担当主幹：昨年4月に発表しました約200億円というのは、新駅そのものと新駅に付随します駅前広場等の整備といったものを含めて、約200億円という想定をしてございまして、そのうちの新駅の部分が、今日発表した168億円という数字でございます。

また、乗降客予想につきましては、昨年の4月に約7万人という想定をしてございまして、これは概略で推定したものでございます。横須賀線の武蔵小杉新駅の詳細な乗降客数の推定はいたしておりませんので、特に昨年と変わっておりません。

記者：乗り換えがどうして遠くなってしまうんですけれども、連絡通路に動く歩道などをつけて、距離と乗り換え時間はどのくらいになるか。

まちづくり局新駅整備担当主幹：連絡通路の距離は約260メートルになります。その中に動く歩道も設置していくという計画で考えております。その間の移動時間としては、通常歩けば3分から4分ほどかかりますので、動く歩道で多少短くなるかと思っております。

記者：260メートルというのは新駅の改札から南武線のホームまでということですか。

まちづくり局新駅整備担当主幹：南武線の既存のホームは今の260メートルには入っておりませんので、連絡通路から横須賀線の乗るところの部分までが260メートルということなんです。

市長：ホームとホームがつながりますので、改札を出なくていいのです。

記者：連絡通路は200億円に含まれているんですか。

まちづくり局新駅整備担当主幹：168億円の中には連絡通路の設置の用地費、工事費等も含まれております。その連絡通路の部分の半分についてはJRが負担をすることになっております。

記者：逆に川崎市が負担する部分というのは、どういう部分なんですか。

市長：JRが22億円ですから、同額程度をその連絡の部分について川崎市が負担するという計算になります。

記者：ほかの部分については。

市長：原則これは請願駅ですから、JRの乗り換えに便利になって、JRにとってプ

ラスになるという部分については、JRが負担しますけれども、それ以外の新駅設置は地元負担という形になります。ですから、市と開発事業者とで負担する形になります。

記者：用地取得とありますけれども、これはNECからですか。

まちづくり局新駅整備担当主幹：用地取得につきましては、新駅の部分につきましては主にNECの用地でございます。それから、連絡通路につきましては南武線沿いの土地の用地取得がございます。

記者：何㎡くらい必要なんですか。

まちづくり局新駅整備担当主幹：NECの部分で約3,700㎡、それから連絡通路の部分で約1,300㎡、合わせて5,000㎡ほどの用地が必要になってまいります。

記者：費用の一部を民間事業者に負担していただくということですが、これは何社になるんでしょう。

まちづくり局新駅整備担当主幹：武蔵小杉駅周辺地区で開発を手がける4つのプロジェクトでございまして、1つは駅前のグランド地区というところがございます。こちらは三井不動産レジデンシャルが事業をやっているところがございます。2つ目は、新駅の予定地のすぐ目の前にございますが、コスモスイニシア他がやっているプロジェクトでございます。3つ目は、中丸子地区で鹿島建設がやっているところ、4つ目は、ジョイントコーポレーション他がやっているプロジェクト、この4つのプロジェクトから60億円を支出していただくということでございます。

記者：NECに負担は求めなかったんですか。

まちづくり局新駅整備担当主幹：NECにつきましては、先ほどの用地の買収にご協力いただくということが1つと、工事のときに、先ほどの買収する面積以外に工事をするための工事ヤードが必要になってまいりますので、そちらの方を基本的に無償でお貸しいただくというような形でご協力をいただけることになっております。

記者：南武線との連絡通路で、距離が長いんじゃないかという話が出ていたんですけども、南武線のホームの延伸とか、そういうのはあるんですか。

まちづくり局新駅整備担当主幹：ホーム状での若干の延伸もございます。

記者：それはどのくらい延ばすんですか。

まちづくり局新駅整備担当主幹：先ほどの260メートルの中で、ホーム状に延びる部分がありますが、どれだけという区分けが、わからないものですから。

市長：要するに新設部分が260メートルで、ホームで延ばせばその分だけ通路部分

が短くなりますが、その辺の具体的なものはまだ決定しているわけではありません。

記者：開業予定が平成21年度になったということは、いつまでを予定しているんですか。

市長：平成21年度内ということで協定は結びましたが、できるだけ早く開業するように努力していくということです。

記者：JRに聞く話なんでしょうけれども、南武線ホームの改修というのは何か予定されているんですか。かなり朝夕、エスカレータが込んでいて利用が不便だということで、さらにそこに利用者が増えてくると、乗降や改札へ上がる時間がかかると思うんですが、その辺はどのように。

市長：今回、エレベータ設置など、いろいろな要素をやりますので、検討はしております。詳細は担当からお話します。

まちづくり局新駅整備担当主幹：まだ詳しくは聞いておりませんが、既存の南武線についても改良していく必要があるのではないかと、JR東日本の方でも考えておられるようでございます。

記者：この施行協定は、協定書のやりとりで結んだということでもいいですか。それとも、例えばJR東日本の本社で調印みたいなことをしたのですか。

市長：調印という形ではなくて、協定書の中身を調整して合意に達したということです。

〈市政一般〉

（本庁舎の建て替えについて）

記者：公共建築物の耐震状況の調査についてですけれども、この市役所本庁舎もかなり厳しい状況かと思いますが、建て直しの見通しとか、その辺は。

市長：建て直しの計画は、全然まだ立てていないのですけれども、今回発表して倒壊のおそれがあるというのは震度6強以上の地震が来た場合という想定ですから、この前、震度5弱までは大丈夫でした。ですから、震度6強から震度7弱のところ、要するに関東大震災並みのものが直撃したらちょっと危ないということです。これまでもずっと関東大震災クラスの震災対策というのは、かなり前から進んできておりまして、その延長なわけです。ですから、今回こういう形で発表して、若干市民の間に反響はありますけれども、できるだけ急いで補強対策と、あるいは古くなったものについては建て替えということで、学校、あるいは病院のような、そういうところを優先的にという考え方で、計画的にこれから対策を講じていきます。この本庁舎について

は関東大震災並みの場合に、完全に崩れてしまうということはないのでしょうかけれど、壁が落ちたとか、いろいろそういうことはあり得るので、ある程度は想定しながら仕事をやる形になると思います。

現時点で、本庁舎を建て替えということについては考えていませんが、できれば補強工事はしていきたいと思っています。

記者：いずれは建て替えということにもなるわけですね。

市長：いつになるかわかりませんが、いずれはそういう話が出てくると思います。これは、近いうちに住民投票条例ができますので、住民投票にかけるのに非常にいい案件ではないのでしょうか。別にそれは決めているわけではなく、考え方として、非常に市民のご意見を伺いたい重要案件だということです。

記者：そうすると、中原とか高津とかに移転してほしいという話も出たり。

市長：今も話はあるんですよ、中原に欲しいとかね。けれども、正式な話としては、まだ全然そういう話は挙がっておりません。

（杉野氏の訪問について）

記者：先日、県知事選に出る杉野さんとお会いしたと伺ったんですけど。

市長：表敬訪問ということで、おみえになりましたのでお会いしました。

記者：どんな印象をお持ちになりましたでしょうか。

市長：印象と言われましても、表敬訪問ということでしたので、ご挨拶をお受ただけです。

記者：それではまだ、先日の存じてないからというレベルからそれほど変わっていないということでしょうか。

市長：存じてないという形で、これから先お話をしていくのは大変失礼なことなので、表敬訪問ということなので、お受けしたということですね。

幹事社：他にはよろしいですか。では、市長ありがとうございました。

司会：では、以上をもちまして、市長記者会見を終了させていただきます。

（以上）

この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

（お問い合わせ）川崎市役所総務局市民情報室報道担当

電話番号：044（200）2355

（以上）